



地震に備えて

〜東日本大震災から10年〜



東日本大震災の発生から、今年で10年が経ちます。多くの命が奪われただけでなく、日常さえも残るまでに奪われたあの日。時間が経つにつれて当時の記憶が、薄れつつある中、今もなお苦しみに直面しながらも復興に向けて歩み続けている人たちが数多くいます。もし、あのような大地震がここ宗像地区で起こったら。緊急消防援助隊として当時、被災地に派遣された隊員に話を聞きながら、今私たちができることを考えてみましょう。

話を聞いた隊員
宗像消防署
警備第1課 救助小隊長
安部 信吾士長



Q どこに何日間派遣されたのですか。

A 緊急消防援助隊福岡県大隊の消防小隊として、宮城県亶理郡に平成23年3月14日から21日までの8日間派遣されました。

Q 被災地を見たときどう感じましたか。

A 新聞やテレビで被害状況を見ていたものの、実際に目の当たりにしたとき



は、現実として受け止めることができませんでした。しかし、「今自分たちができる活動を精いっぱいやる」と力強く思ったことを覚えています。

Q 現地の人々の様子はどうでしたか。

A 避難所が集まった人たちであふれかえり、寝る場所さえも満足に確保できていない状況でした。また、支援物資もストップしているようで、憔悴しきった様子でした。

Q 今考えることは。

A 東日本大震災から10年。人々の記憶は薄れつつあるかもしれませんが、だからこそ、当時のことを振り返ってみてください。決して他人ごとではありません。日ごろからの備えはもちろんです。普段から防災意識を持つことが大切だと考えます。

「知っている」だけでなく、大切なのは「具体的に実行しているか」かどうかです。
※掲載写真は、当時派遣された隊員が撮影したものです。

人命救助表彰について (お知らせ)

宗像地区消防本部では、令和3年1月7日に宗像市鐘崎の岬地区コミュニティセンターで人命救助協力者を表彰しました。

令和2年12月2日に、宗像市鐘崎の鐘崎漁港西側波止場で発生した溺水事故において、家族の助けを求め声に気付いた漁船の船員等4人のうち1人が海に飛び込み、海に転落した要救助者1人を波止場にいた3人が引き揚げるなど協力して救助されました。

この尊い人命を救助された功績をたたえ、消防長より感謝状と記念品を贈りました。



(左から) 永島消防長、権田竜也さん、古賀千秋さん、入江利久さん、三上航汰さん

〈もしもの備えは?〉

①家族会議や避難訓練

地震や津波が発生したときの避難経路や、家族との連絡方法など、家庭内で話し合っておきましょう。また、各地域で行われている防災訓練にも積極的に参加し、地域の人たちと顔の見える関係を作り、万が一に備えましょう。

②地域の避難場所を確認

地域ごとに決められている避難場所を、各世帯に配られている「防災マップ」で確認しておきましょう。

宗像市
防災マップ



福津市
防災マップ



③避難に備え、非常持出品を準備

避難時にすぐ持ち出せるように、非常持出品をリュックサックなどにまとめておきましょう。年齢や性別によって必要なものも異なります。何が必要かを家族で話し合い、確認したうえで準備しましょう。

◇詳しくは総務省消防庁のホームページをご覧ください。



避難の三原則

- その1「想定にとらわれるな」**
予想以上の災害が起こる可能性があります。想定にとらわれず、逃げることを。
- その2「最善をつくせ」**
「自分は大丈夫」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとりましょう。
- その3「率先避難者たれ」**
いざというときには、まず自分が率先して避難すること。その姿を見て、周りの人も避難するようになります。

火災を防ぐ豆知識

〈通電火災にご注意!〉

地震や台風等の自然災害の影響により、停電から電気が復旧することによって発生する火災のことをいいます。

〈通電火災を防ぐには?〉

停電中は、電気機器のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。停電中に自宅から離れる際は、ブレーカーを落とす。
※行政から避難指示等が発令され、自宅から避難する場合は特に心掛けてください。

◇詳しくは、総務省消防庁のホームページをご覧ください。



救急車が必要か迷ったとき 医療機関がわからないとき

救急車の利用や最寄りの医療機関についてアドバイスします。

福岡県救急医療電話相談事業

#7119

24時間受付
年中無休

#を押して7119
または 092-471-0099